

⑤ 歯科疾患

愛知県の実況

- ★ 12歳児でう蝕のない者の割合は、約7割となっています。
- ★ 40歳で歯周炎を有する者の割合は、約3割となっています。
- ★ 80歳で20本以上自分の歯を有する者の割合は、約4割となっています。

基本的な考え方

愛知県では、これまで「80歳で20本以上自分の歯を保つこと」を目標に掲げ、歯を失う二大疾患であるう蝕(むし歯)と歯周病の予防対策に取組み一定の成果を上げてきました。

歯・口腔の健康を保つうえで、う蝕と歯周病の予防は必須の項目であり、今後も予防対策に取り組む必要がありますが、特に歯周病については、糖尿病や循環器疾患等の全身疾患との関連性も指摘されているため、愛知県においても医科歯科連携をさらに推進し、引き続き全身の健康と関連付けて取り組む必要があります。

また、高齢化がさらに進展する中においては、生活の質に大きく関連する「口腔機能の維持・向上」を推進していくことも重要であり、「健康寿命の延伸」を図るため、歯科保健対策のより一層の充実が必要です。

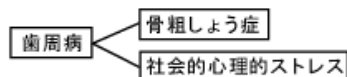
<参考> 歯周病と全身疾患との関連

最近の研究で、歯周病と全身の健康との関係が明らかになってきました。循環器疾患、糖尿病、骨粗しょう症などの全身疾患や低出生体重児出産との関連性も指摘され、歯周病予防が単に歯科の疾患予防というだけでなく、全身の健康を側面から維持し、より豊かな人生を過ごすためにも重要であるといえます。

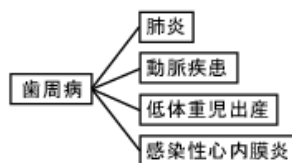
・深い関連が指摘されているもの



・潜在的な影響が指摘されているもの



・影響について報告されているもの



(資料:8020 推進財団 HP より引用)

重点目標

ア 口腔機能の維持

項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
① 咀嚼良好者の増加	80歳(75歳～84歳)の咀嚼良好者の割合の増加	54.2%	70.0%以上	—
		平成21年厚生労働省「国民健康・栄養調査」(愛知県分)	平成34年度	—
② 8020(ハチマルニイマル)達成者の増加	80歳(75歳～84歳)で20本以上自分の歯を有する者の割合の増加	40.7%	50.0%以上	38.3%
		平成24年愛知県「生活習慣関連調査」	平成34年度	平成23年厚生労働省「歯科疾患実態調査」

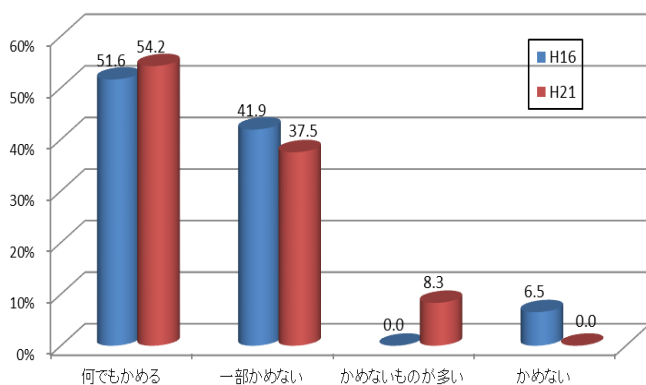
【目標値の考え方】

① 高齢期における咀嚼機能は、その良否が栄養摂取状況や運動機能と密接な関連があり、咀嚼等の口腔機能の維持は重要な健康課題である。国民健康・栄養調査の項目の一つである咀嚼状況において、「何でもかんで食べることができる」と回答した者を咀嚼良好者とし指標とした。目標値は、平成16年、平成21年に「歯の健康」を重点項目として実施した結果を回帰分析により推計(60.9%)し、さらに今後定期的に歯科検診を受診する者の増加を見込み、期待値を含めて70%とする。

② 歯の喪失は、摂食機能や構音機能等の主要な生活機能に影響を与え、また寿命との間に有意な関連性があることも明らかになっている。歯・口の健康づくりを代表する健康目標である「8020(80歳で20本以上自分の歯を保つ)達成者」を指標とし、目標値は、国の直近値が38.3%であることを考慮し、国と同様に50%とする。

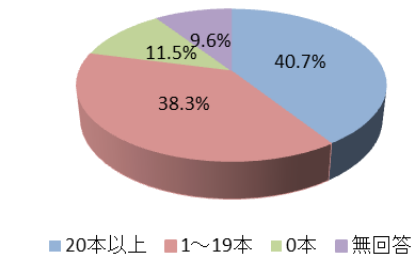
- 平成21年国民健康・栄養調査(愛知県分)によると、「何でもかんで食べることができる」と回答した80歳(75～84歳)の割合は、54.2%となっています。また、平成24年愛知県生活習慣関連調査によると、「自分の歯が20本以上ある」と回答した80歳(75～84歳)の割合は、40.7%となっています。(図1、2)
- 自分の歯が20本あれば、何でもよくかんで食べられるとされており、歯の喪失と寿命との間に有意な関連性があることも複数の疫学研究によって明らかにされています。そのため、高齢期における歯の喪失を抑制し、口腔機能の維持を図ることが重要な課題となります。

図1 80歳(75歳～84歳)における咀嚼状況



(資料:平成21年厚生労働省「国民健康・栄養調査(愛知県分)」)

図2 80歳(75歳～84歳)における現在歯数



(資料:平成24年愛知県「生活習慣関連調査」)

健康・行動目標

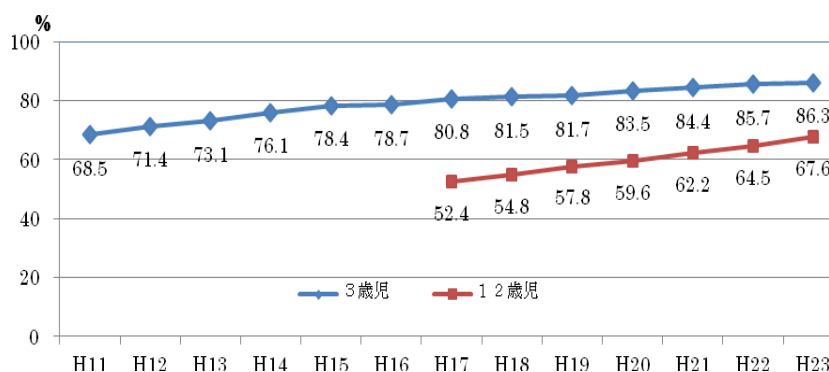
イ う蝕の減少

項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
う蝕のない者の増加	3歳児のう蝕のない者の割合の増加	86.3%	95.0%以上	77.1%
		平成23年度愛知県「乳幼児健康診査情報」	平成34年度	平成21年厚労省「歯科健康診査実施状況調べ(3歳児)」
	12歳児のう蝕のない者の割合の増加	67.6%	77.0%以上	54.6%
		平成23年度愛知県「地域歯科保健業務状況報告」	平成34年度	平成23年文科省「学校保健統計調査」

【目標値の考え方】
 乳歯う蝕の状況を評価する上で最もよく用いられる「3歳児のう蝕のない者」の割合を指標とする。目標値は、平成11年度から平成22年度までのデータから回帰分析による推計を行い96.3%と推計されたが、既にう蝕のない者の割合は高率に達しており、今後改善傾向に抑制がかかると想定されるため、実現可能性を考慮して95%とする。
 また、永久歯う蝕は、学齢期の歯科保健の代表的な指標である「12歳児のう蝕のない者」の割合を指標とする。目標値は、「フッ化物配合歯磨剤の使用者」の割合が9割に達し、県内の「フッ化物洗口を実施している施設」の割合も25%となり、「う蝕のない者」の割合の増加に抑制がかかると想定されるため、国と同様に10ポイント増の77%とする。

- 平成23年度愛知県「乳幼児健康診査情報」によると、「3歳児のう蝕のない者」の割合は86.3%となっており、平成11年度(第1次計画策定時)の68.5%と比較して大きく改善しています。平成17年度以降、3歳児のう蝕のない者の割合は、都道府県別で第1位となっていますが、第1次計画の目標であった90%には達していません。乳幼児期は、生涯にわたる歯科保健行動の基盤が形成される時期であり、う蝕有病状況の更なる改善を図るため、母子保健活動を中心とした予防対策を進めることが必要です。
- 平成23年度愛知県地域歯科保健業務状況報告によると、「12歳児のう蝕のない者」の割合は67.6%となっており、12歳児のデータ把握を開始した平成17年度の52.4%と比較して15.2ポイントの増加となっています。12歳児は永久歯がほぼ生えそろう重要な時期であり、この時期に良好な歯科保健習慣の定着を図るため、学校保健を始めとする歯科保健教育の実施等により有病率低下に取り組むことが必要です。(図3)

図3 3歳児と12歳児のう蝕のない者の推移



(資料:愛知県「乳幼児健康診査情報」「地域歯科保健業務状況報告」)

ウ 歯周病の減少

項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
歯周疾患を有する者の減少	歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少(14歳)	10.5%	5.0%以下	5.54%
		平成23年文科省「学校保健統計調査」	平成34年度	平成23年文科省「学校保健統計調査」
	歯周炎を有する者の割合の減少(40歳)	27.4%	20.0%以下	—
		平成23年度愛知県「歯周疾患検診実施状況報告」	平成34年度	—

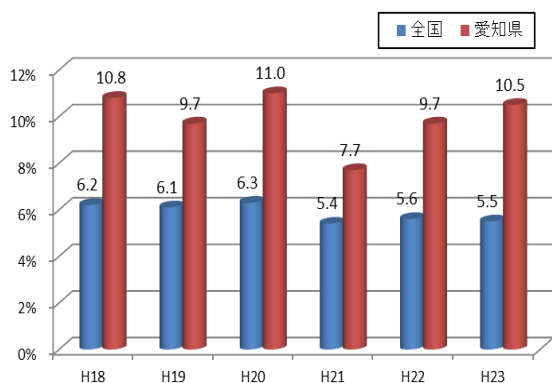
【目標値の考え方】
 歯周病は、歯の喪失をもたらす原因疾患の一つであり、歯周病の初期状態である歯肉炎の予防は、学齢期の口腔保健の向上を図る上で重要な課題である。「14歳で歯肉に炎症所見を有する者」の割合を指標とし、目標値は現状値の半減を目指し5%とする。
 また、40歳以降、歯周炎は顕在化し始めるため、この年齢において有病状況を把握することは歯周病対策を進めていく上で極めて重要である。歯周疾患スクリーニング評価であるWHOのCPI(※1)にてコード3以上の者を、「歯周炎を有する者」とし指標とした。目標値は、平成11年度の21.0%から平成20年度の29.2%へと10年間で8.2ポイント悪化しているが、それ以降は若干改善傾向に転じていることを踏まえ、平成11年度の状態を参考に20%とする。

※1 CPI(地域歯周疾患指数 Community Periodontal Index)

WHOが提唱した歯周疾患の診査法で、地域の歯周疾患の状態を示す指標として用いられている。専用の深針(プローブ)を用いて、歯肉出血・歯周ポケット・歯石の3指標により、コード0~4の5段階(コード0:健全、コード1:出血、コード2:歯石沈着、コード3:浅い歯周ポケット、コード4:深い歯周ポケット)で評価する。

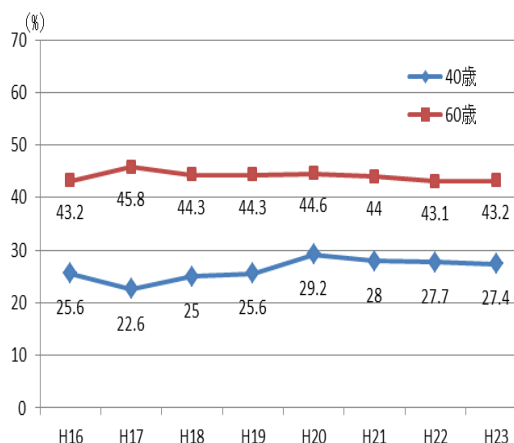
- ・ 歯周病は、歯肉に局限した炎症が起こる歯肉炎と他の歯周組織にまで炎症が起こる歯周炎の二つがあります。
- ・ 平成23年文部科学省「学校保健統計調査」によると、愛知県の「14歳で歯肉に炎症所見を有する者」の割合は10.5%となっており、全国平均より高い状況です。(図4)
 また、歯周炎が顕在化し始めるのは40歳以降といわれており、平成23年度愛知県「歯周疾患検診実施状況報告」によると、「40歳で歯周炎を有する者」の割合は27.4%、「60歳で歯周炎を有する者」の割合は43.2%となっています。(図5)
- ・ 歯周病は、糖尿病や循環器疾患のリスク要因となり、喫煙との関連性も指摘されています。適切な口腔管理による発症予防とともに、重症化予防の側面からも、医科歯科連携の推進による全身疾患と並行した管理や、禁煙支援に関連した歯科保健指導等をさらに進めていく必要があります。

図4 14歳で歯肉に炎症所見を有する者の推移



(資料:平成23年文科省「学校保健統計調査」)

図5 40歳、60歳で歯周炎を有する者の推移



(資料:平成23年度愛知県「歯周疾患検診実施状況報告」)

本県の取組と役割

- ◎ 歯科疾患の予防に関する正しい知識の普及啓発、情報の提供に努めます。
- ◎ 市町村等との連携を強化し、県内の歯科保健水準の向上に努めます。
- ◎ 歯周病と糖尿病との医科歯科連携体制(あいちモデル)を推進します。
- ◎ 80歳になっても20本以上自分の歯を保つことを目標とした「8020(ハチマルニイマル)運動」を推進します。
- ◎ 「愛知県歯科口腔保健基本計画」に基づき推進します。